

# 佐世保市民が353億円を負担する ダムの建設計画が進んでいます。

長崎県・川棚川の下流にある小さな支流、石木川にダムを作る建設計画があります。石木ダムの総事業費は建設費と関連事業費を合わせて、合計538億円です。その内、県の負担分を差し引いた約353億円がダムの水を利用することになる佐世保市民の負担となります。



## どこに造るの？



## 誰が造ろうとしているの？

長崎県と佐世保市の共同事業です。

## どうして造るの？

石木ダム建設の目的は、大きく2つあります。

- ① 佐世保市の水の確保
- ② 川棚川の洪水の防止

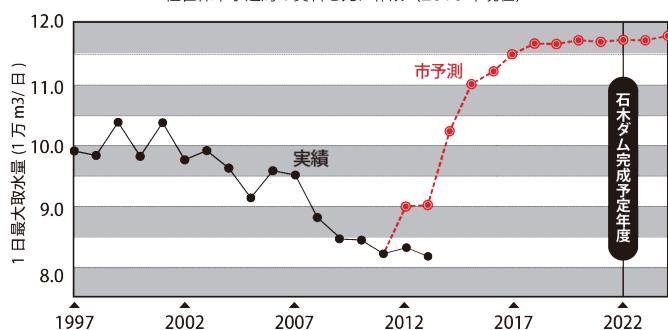
## 佐世保市の水が足りていないの？

### 佐世保市の主張

ダムが完成する頃に水の需要が急激に増加し、  
**石木ダムを造らないと佐世保市の水が足りなくなる。**

佐世保地区の1日の最大取水量・実績と市予測

佐世保市水道局の資料を元に作成（2016年現在）



### 専門家の主張

1日の最大給水量が2003年以降減少中にも関わらず、2013年を機に大幅に需要が伸びるという市の主張は、**ダムを造るための過大な需要予測。**

## ダムがあれば洪水は止まるの？

### 長崎県の主張

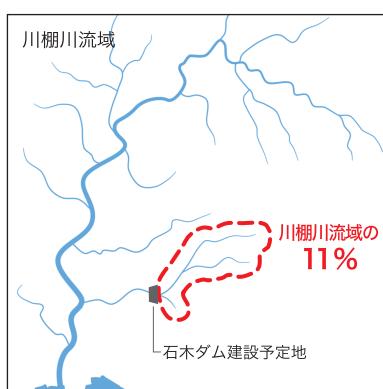
ダムがないと…



ダムがあると…



### 専門家らの主張



ダムの建設予定地は**川棚川流域の11%**しかなく、洪水防止に役立つとは言い難い。2014年7月に長崎県知事が「河道整備が完成すれば、過去と同規模の洪水は石木ダムなしで対処できる」と明言。**洪水対策は建設理由として根拠に乏しい。**



これは、ムダな公共事業の典型的な例です。

石木ダムの建設計画は、40年以上も前に生まれた昭和的な発想の計画で、今の時代に全く合っていません。計画に客観的な根拠もありません。

でも、残念ながら佐世保市民の多くは、この問題のことよく知りません。ダムが作られる場所が、佐世保市から離れた小さな町の話なので、しょうがないのかもしれません。でも、これは佐世保市が計画を進め、佐世保市民が353億円という莫大な借金を背負うことになる話です。今私たちが下す判断が、次の世代への大きな影響を与えます。必要な漏水対策を怠り、必然性に乏しいダム計画を押し進めるべき客観的な理由は、どこにもありません。

[建設計画を見直すべき理由]

- 建設の大きな理由とされている「水の確保」と「洪水の防止」が客観的根拠に乏しい
- 膨大な総工費と維持費を支払い続けるのは、子育てをしている世代とその子供たち
- 佐世保市の人口は年々減少 → 税収も年々減少 → 次の世代の負担が大きくなる
- ダム建設予定地に暮らす、13世帯の住民の土地や家屋が強制的に奪われる
- 自然の生態系が破壊され、ホタルをはじめ100種類以上の生物の生息が危ぶまれている
- ダムを作る石木川は、川幅が2~6mしかない小さな小さな小川  
(現場を見た人はみな呆れる…)

## ダムの前に、漏水対策が必要です

1日あたり、約5万人分の生活用水が地中に漏れています。

実は、佐世保市の水道管は老朽化が進んでおり、一日平均9,350m<sup>3</sup>漏水しています。それは、例えるなら4t トラック 2,338台分の使える水をムダにしているということで、給水原価に換算すると、1年間で約7億円もムダにしています。その漏水率は、なんと全国ワースト8位。

(給水人口 20万人以上・2015年度)

水が地中に漏れ出すと地盤が弱くなり、道路の陥没など、重大問題に発展していきます。佐世保市は「水が足りないから」との理由からダム建設を進めていますが、その前にしなければならないのは、漏水対策です。ダムにお金を費やしている場合ではないのです。

### 佐世保市における水道管の老朽化による事故

- ・2015年1月 潮見町 160世帯断水
  - ・2015年4月 天神町 2500世帯断水
  - ・2015年12月 藤原町 500世帯断水
- 市民生活に大きな被害が及ぼしました。



石木ダムを止められるのは、あなたの意識です。  
いしきをかえよう。

まずは知ることからはじめませんか。

石木ダム



水問題を考える市民の会 & 石木川まもり隊  
〒857-0834 佐世保市潮見町1-30-1311  
電話・FAX: 0956-80-1754  
携帯: 090-6171-5810  
メール: michi30@hyper.ocn.ne.jp